

本稿は、政党独裁国家メキシコとソ連の二か国の政治史について、その政治制度の変遷に着目して分析、記述を行うものである。このように一見して全く異なる二か国を分析するにあたって本稿の記述を導くのは、近年の比較政治学において急速に発展を遂げている独裁体制の政治制度研究である。そうした先行の独裁体制研究の成果を批判的に摂取し、精緻化することで、メキシコとソ連という大きく異なる2つの独裁国家の歴史を、独裁者による一つの課題をめぐる歴史として把握することが可能になる。

独裁者の一つの課題とは、統治の実務に携わる国家機関や党機関の公職ポストを占める人材すなわち「体制内エリート」の選抜制度をいかにデザインするかという問題である。これらの体制内エリートを独裁者が政党組織を通じて「上から」指名する場合、独裁者と体制内エリートの関係は上意下達の関係として安定し、政治秩序が維持される一方で、一般大衆には不満が蓄積される。しかし、大衆の不満を緩和するために公職ポストを競争選挙によって「下から」選ぶ場合、体制内エリート相互の、そして体制内エリートと独裁者との間の権力闘争を招き、政治秩序そのものが危うくなる。大規模な政治的暴力が行使されることもある。

では、独裁者に安定をもたらす上からの指名と、政治的混乱を帰結する下からの競争選挙に代わるエリート選抜制度は存在しないのか。本稿はここで、「上からの指名」と「下からの競争選挙」の二つの特徴をあわせもつ体制内エリート選抜制度として、「複数政党制」が存在すると論じる。複数政党制の下では、独裁者は、選挙の際の候補者指名権限を通じて体制内エリートを指名し、その後、独裁者に指名された体制内エリートが野党の候補者と競争選挙を行うことになる。この複数政党制は、上からの指名の特色と下からの競争選挙の特色を併せもつため、体制内エリートの結束を保ちつつ大衆の不満を緩和できるというメリットがある。

要するに本稿は、独裁体制における体制内エリート選抜制度には3種類すなわち「上からの指名制」「下からの競争選挙」そして「上からの指名と下からの競争選挙の特色を併せ持つ複数政党制」があると考えており、ソ連とメキシコという全く異なる2つの政党独裁体制の政治史を、これら3つのエリート選抜制度選抜制度の変遷として記述するのである。

この分枠組の射程は、ソ連とメキシコを超えて独裁体制一般に届くであろう。いかなる政治体制であれ、何らかの形で体制内のエリートを選抜する必要があるからである。